

預言者ムハンマドを「継いだ」学者たち
—10-13世紀のムスリム社会の研究—

森山央朗

同志社大学神学部准教授

1, 西アジア・ムスリム社会史研究におけるウラマーとイスラーム史における10-13世紀

- ・ウラマー（‘ulamā’）：「学者たち」、イスラーム宗教知識人（単数形：アーリム ‘ālim）

イスラーム宗教知識：『クルアーン（コーラン）』学

ハディース（預言者ムハンマド（632年没）の言行に関する伝承）学
法学、神学、アラビア語学、タサウウフ（スーフィズム）等

… 唯一神と預言者ムハンマドに依拠・関連すると考えられた諸知識

ムスリム社会における宗教的指導者・宗教的権威者≒在地名望家

cf. 日本の僧侶・神主、中国の士大夫／郷紳、インドのバラモン、

キリスト教徒社会の聖職者、ユダヤ教徒社会のラビ、等々

- ・ウラマーに関する歴史学研究の問題と意義

問題：ウラマーの定義の曖昧さ … 組織・制度・身分によって規定されない

社会の諸要素を神やムハンマドに結びつけて価値付け／批判を行う存在

→ 社会を「イスラーム化」する存在 [Humphreys 1999, 187]

8世紀に史料上に出現して以来、各時代・各地域のムスリム社会に遍在

ムスリム社会の歴史の変容を考察する上でウラマーの分析は不可欠＝意義

- ・10-13世紀の西アジア・ムスリム社会の歴史上の位置：「古典イスラーム時代」

「初期イスラーム時代（7-9世紀）、古典イスラーム時代（10-13世紀）、

中世イスラーム時代（14-16世紀）、近世イスラーム時代（17-18世紀）」という時代区分

… 現在のイスラームに見られる基本的な諸要素が形成・定着した時代

ウラマーの知的実践・社会的活動・社会的権威が形成・定着した時代

2, 史料、先行研究、問題設定

- ・ウラマーの歴史学研究の主要史料：人名録／歴史（ṭabaqāt/ta’rīkh）

[Hafsi 1976; Hafsi 1977; Qayyim 1994; al-Qāḍī 1995; al-Qāḍī 2006; 谷口 2005]

地域別ウラマー人名録：特定の地域と関係したウラマーの経歴・評価を記録した定型的記事の修正《史料1》

ウラマーは「地方史 (ta'rikh al-balad)」の一類型に分類

「地方史人名録」 [森山 2009; 森山 2014]

10-13世紀の西アジアの各地で多数編纂

←→ 構成・形式・内容に強固な共通性

例) ハーキム・アン＝ナイサーブリー (1014年没) 『ニーシャープール史』 (2,591件)

アブー・ヌアイム (1038年没) 『イスファハーン史』 (1,922件)

ハティーブ・アル＝バグダーディー (1071年没) 『バグダード史』 (7,832件)

イブン・アサーキル (1176年没) 『ダマスカス史』 (10,226件)

研究者の期待と失望：数千件の伝記記事を収録

定型的で無味乾燥な記録の集積

… ウラマーの活動を活写するものではない

・ 先行研究：在地名望家・宗教指導者としてのウラマーの社会的活動に注目

知識の継承と社会的権威の形成、政治権力者との関係に注目

[Bulliet 1972; Berkey 1992; Chamberlain 1994; Morray 1994; Mottahedeh 2000]

ウラマーが形成した間地域的ネットワークに注目

[Bulliet 1970; Petry 1985; 湯川 1990; 森山 2004]

思想・宗派研究＝ウラマーが産み出した思想の研究 [Madelung 1988]

→ 在地名望家 (社会的勢力としてのウラマー) の側面と、

思想 (ウラマーの知識の中身・成果) の側面に分断

… 知的実践と知識人としての評価・地位の形成・獲得に対する関心が薄い

「人は、何をやって、どのようにウラマーになるのか？」

・ 問題設定：ウラマーは、知識人としての評価を獲得するために、何をしたのか？

分析対象：地方史人名録の「編纂流行」 (10世紀後半-13世紀前半)

同じような地方史人名録が、各地で、繰り返し編纂されたのはなぜか？

地方史人名録は、誰が、何のために、何を記録したものなのか？

どのように編纂され、流通し、利用されたのか？

3, 地方史人名録の概要：地誌部分と人名録部分

- ・地誌部分：記述対象地域の由緒来歴、美質、ムスリム軍による征服

編纂者の言葉では無く、ハディース・伝承を列挙することで語る
全体の1割以下の分量

- ・人名録部分：全体の9割以上を占める

記述対象地域と何らかの関係を持ったウラマー・ハディース伝達者／学者
(muḥaddith) の学問的経歴と評価＋その人物が記述対象地域で伝えたハディース・伝承

記述対象地域に関係した教友から編纂者の師の世代を網羅

定型的な記述形式

乏しい地方性＝地域に関係なく、ウラマー・ハディース学者であれば、誰でも理解できる内容

記事の分量・密度は、被記載者と記述対象地域の関係の濃淡に影響されない・・・ウラマー・ハディース伝達者としての間地域的・一般的評価に依存

- ・想定された読者と編纂目的：他地域のウラマー・ハディース学者

記述対象地域に関するハディース、記述対象地域でハディースを伝えた人々の情報、記述対象地域で伝えられたハディースを他地域に伝達する

→ ハディースの探求とイスナード（ハディース伝達経路）の検証
批判によるハディースの真正性の判定に必須の情報の効率的流通の確保

ハディース学との強い関連 [Gibb 1962, 55]

地方意識の発露 [Rosenthal 1968, 166] が主要な編纂目的では無い

なぜ、10世紀後半から13世紀前半に、特に多くの作品が、広範な地域で編纂されたのか？

4, 地方史人名録編纂流行とその背景

- ・編纂流行の概要

[Hājī Khalīfa n.d; al-Sakhāwī 1930-1931; Brockelmann 1937-1949; Sezgin 1967-; 伊藤 1997]

地方史人名録の作品数

8世紀から16世紀初頭までに編纂されたアラビア語地方史＝427作品

現伝=118作品 引用等で一部現伝=77作品

… 構成・形式・内容が判明=195作品

地方史人名録=109作品（約56%）、地誌=43作品（約22%）

地方文人・総督人名録=25作品（約13%）、地方事件史=18作品（約9%）

地方史人名録の編纂年代の分布 *（ ）内は既存の作品の抜粋・続編

9世紀-10世紀前半=11作品、10世紀後半=12作品

11世紀=18（4）作品、12世紀=13（4）作品、

13世紀前半=16（10）作品、13世紀後半=9（6）作品

14世紀=18（14）作品、15世紀-16世紀初頭=12（9）作品

… 109作品中59作品が10世紀後半から13世紀前半に編纂

正編62作品中41作品が10世紀後半から13世紀前半に編纂

10世紀後半から13世紀前半=ハディース学の隆盛期

編纂地域：アンダルス（イベリア半島中南部）

～マー・ワラー・アン=ナフル（中央アジア西部）

構成・形式・内容の強固な共通性《史料2、3》

編纂者たち：ハディース学者が大半

10世紀のホラーサーン（イラン北東部）に遡る学統に連なり、「ハディースの徒（Aṣḥāb/Ahl al-Hadīth）」を自称する人々が中心

法学派としてはシャーフィイー派に分類される人々がほとんど

同じ専門分野=同じ興味関心+同じ学統+同じような思想傾向

=地方史人名録の同じような構成・形式・内容

・編纂流行の構造：編纂・流通・利用の循環 《史料4》

他地域の地方史人名録の利用=地方史人名録の編纂 → 他地域へ流通 →

流通先での利用=その地域での地方史人名録の編纂 → …

ハディース学者の間地域的ネットワークを介した知識の受容・利用・流通の一部

・編纂流行の背景

①理念的背景：「ムハンマドのウンマ」の不可分の一部としての記述対象地域

「ムハンマドのウンマ」=ハディースが伝達される空間

ハディースの伝達によってムハンマドに結び

つけられる空間

9-10世紀にかけてのムスリム人口の増加（改宗の進展）と関連

[Bulliet 1979]

イスラーム的世界観・地方観に対する社会的需要 [森山 2014]

地方史人名録の編纂が9世紀に始まり、10世紀に本格化した背景

②学問的必要：ハディースの探求と真正性判定に必要な情報の流通の確保

時間の経過による伝達者の増加

ハディース学の理論的發展（10-11世紀）

地方史人名録の編纂が10世紀から11世紀にかけて盛んになった背景

③学問的野心：評価の見込める形態で同形態の先行作品より優れた作品を発表し、より高い学問的評価を得ようとする

… 効率的な業績生産による効率的な評価の獲得

11-12世紀の作品規模の大型化・形式の洗練・内容の多様化の背景

編纂流行が13世紀前半まで続いた背景

編纂流行が13世紀前半で終わった背景

… 非常に高い評価の確立された作品の出現

= それらの作品をしのぐことの困難

→ それらの作品の抜粋・続編の増加（13世紀以降）

= 権威の継承と利用

ハティーンブの『バグダード史』を超えようとして、『平安の都の歴史における大いなるイスラームの台帳 *Dīwān al-Islām al-A‘zam fi Ta’rikh Dār al-Salām*』を編纂したイブン・アル＝マーリスターニーヤ（「病院女の息子」1202/3年没）に対する、『バグダード史』続編編纂者、イブン・アッ＝ドゥバイスィー（1239/40年没）とイブン・アン＝ナッジャール（1245/6年没）の激しい非難

[Ibn Rajab 1952-1953, 1:443-445]

間地域的ネットワークを通じた知的実践によって獲得される学問的評価

= 学者としてのハディース学者・ウラマーの存立基盤 [森山 2011]

… 在地名望家としての社会的影響力・権威の基盤

ハディース学者・ウラマーは、どのように、学者としての評価・地位を名望家としての影響力や権威につなげたのか？

ハディースなどのイスラーム的知識に、どのように、高い社会的価値を認めさせたのか？

5, 「ハディースの徒」のハディースをめぐる理論形成とその活用の研究

- ・「預言者の相続人」：「ハディースの徒」の自己認識

[al-Khaṭīb al-Baghdādī 1972, 30-34, 45-46; al-Khaṭīb al-Baghdādī 2004, 75-82; 森山 2007, 102-103]

知識＝ハディースは預言者の遺産

血統主義・論証主義に対する伝承主義の主張

「ハディースの徒」がいなければイスラームは存続し得ない
ムハンマド亡き後の「ムハンマドのウンマ」をいかに導くかという
論争

→ ハディース学者・ウラマーの社会的影響力・権威の理論的根拠

この理論がどのように形成され、論証され、合意されていったか？

この理論がどのように社会に浸透していったか？

- ・「ハディースの徒」の色々：様々な時代・地域の様々な集団・学統が自称

… 調査・再考の必要

イラク系「ハディースの徒」：後のハンバル法学派

論争的

9世紀のイラクで「見解の徒」、ムウタズィラ派と対立

ミフナ（異端審問）に抵抗

現状批判の根拠としてのハディース … 反権力的

ホラーサーン系「ハディースの徒」：後にシャーフイー法学派に溶解

10世紀のホラーサーンに遡るハディース学者の学統
学研的

ハディースの真正性判定理論の形成とハディースの
権威の確立・保全

現状肯定の根拠としてのハディース … 親権力的

→ ハディースを用いて様々な事柄を称揚・肯定する論説・説教を多数残す

- ・ホラーサーン系「ハディースの徒」の理論書と論説・説教の分析

ハディースをめぐる理論の展開

それらの理論をどのように用いて、何を論じ、何を説いたか

論説・説教が社会でどのように受容されたか

+ハディース集の「聖物化」とハディース学者の「聖者化」

6, 預言者ムハンマドを「継いだ」学者たちを研究する意義

・イスラーム研究上の意義

知識人の側面と名望家の側面に分断されて論じられてきたウラマーの歴史的姿を統合的・立体的に描き直す

ハディース学の形成・展開とその背景・影響の解明

ハディースが伝えるスンナに依拠すると想像する共同体

＝スンナ派の形成過程の解明へ

・歴史学研究上の意義

知識と知識人の社会的影響力・権威の関係について考察するための事例

知識と社会の歴史学的研究

cf. 『知識の社会史』 [バーク 2004]

文献一覧

ハーキム・アン＝ナイサーブリー (1014年没) 『ニーシャープール史』

Al-Ḥākim Abū ‘Abd Allāh Muḥammad al-Naysābūrī, *Tārīkh-i Nīshābūr*, Persian Translation by Muḥammad b. Ḥusayn Khalīfah-yi Nīshābūrī (d. ca. 1400), ed. Muḥammad Riḍā Shafī‘ī Kadkanī, Tehrān: Āgāh, 1996.

アブー・ヌアイム (1038年没) 『イスファハーン史』

Abū Nu‘aym Aḥmad b. ‘Abd Allāh al-Mihrānī, *Dhikr Akhbār Iṣbahān*, ed. Sven Dederling, 2 vols., Leiden: E. J. Brill, 1931-1934; *Ta’rīkh Aṣbahān: Dhikr Akhbār Aṣbahān*, ed. Sayyid Kasrawī Ḥasan, 2 vols., Bayrūt: Dār al-Kutub al-‘Ilmīya, 1990.

ハティーン・アル＝バグダーディー (1071年没) 『バグダード史』

Al-Khaṭīb al-Baghdādī, Abū Bakr Aḥmad b. ‘Alī, *Ta’rīkh Baghdād aw Madīnat al-Salām*, ed. Muṣṭafā ‘Abd al-Qādir ‘Aṭā. 14 vols. + index, Bayrūt: Dār al-Kutub al-‘Ilmīya, 1997.

イブン・アサーキル (1176年没) 『ダマスカス史』

Ibn ‘Asākir, Abū al-Qāsim ‘Alī b. al-Ḥasan, *Ta’rīkh Madīnat Dimashq wa Dhikr Faḍl-hā wa Tasmiya man Halla-hā min al-Amāthil aw Ajtāza bi-Nawāḥi-hā min Wārid-hā wa Ahl-hā*, ed. Ṣalāḥ al-Dīn al-Munajjid et al., Dimashq: al-Majma‘ al-‘Ilmī al-‘Arabī bi-Dimashq/Majma‘ al-Lughā al-‘Arabīya bi-Dimashq, 1951-; *Ta’rīkh Madīnat Dimashq*, ed. ‘Umar b. Gharāma al-‘Amrawī and ‘Alī Shīrī. 80 vols. Bayrūt: Dār al-Kutub al-‘Ilmīya, 1995-2001; *Ta’rīkh Dimashq li-Ibn ‘Asākir*, CD-ROM Format, ‘Ammān: Dār al-Turāth, 2000.

- Berkey, Jonathan 1992: *The Transmission of Knowledge in Medieval Cairo: A Social History of Islamic Education*, Princeton: Princeton University Press.
- Brockelmann, Carl von 1937-1949: *Geschichte der arabischen Litteratur*, 5 vols., Leiden: E. J. Brill.
- Bulliet, Richard W. 1970: "A Quantitative Approach to Medieval Muslim Biographical Dictionaries," *Journal of the Economic and Social History of the Orient* 13.
- 1972: *The Patricians of Nishapur: A Study in Medieval Islamic Social History*, Cambridge MA: Harvard University Press, 1972.
- 1979: *Conversion to Islam in the Medieval Period: An Essay in Quantitative History*, Cambridge MA: Harvard University Press.
- Chamberlain, Michael 1994: *Knowledge and Social Practice in Medieval Damascus, 1190-1350*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Gibb, Hamilton, 1962: "Islamic Biographical Literature," in Bernard Lewis and P.M. Holt eds. *Historians of the Middle East*, Oxford: Oxford University Press.
- Hafsi, Ibrahim 1976: "Recherches sur le genre «Ṭabaqāt» dans la littérature arabe I," *Arabica* 23/3.
- 1977: "Recherches sur le genre «Ṭabaqāt» dans la littérature arabe II," *Arabica* 24/2.
- Ḥājjī Khalīfa, Kātib Chilibī (d. 1657), n.d.: *Kashf al-Zunūn 'an Asmā' al-Kutub wa-al-Funūn*, ed. Muḥammad Sharaf al-Dīn Yāltiqāyā Bayligah al-Kilīsī, 2 vols., Baghdād: Maktabat al-Muthannā.
- Humphreys, R. Stephen, 1999: *Islamic History: A Framework for Inquiry*, London and New York: I. B. Tauris (Revised edition, First published in 1991 by I. B. Tauris).
- Ibn Rajab, Zayn al-Dīn Abū al-Faraj 'Abd al-Raḥmān (d. 1392) 1952-1953: *Dhayl Ṭabaqāt al-Ḥanābila*, ed. Muḥammad Ḥāmid al-Faqī, 2 vols., al-Qāhira: Maṭba'at al-Sunna al-Muḥammadiya.
- al-Khaṭīb al-Baghdādī, Abū Bakr Aḥamd b. 'Alī (d. 1071) 1972: *Sharaf Aṣḥāb al-Ḥadīth*, ed. Mehmed Saīd Hatıboğlu. Ankara: Ankara Üniversitesi Basımevi.
- 2004: *Al-Riḥla fī Ṭalab al-Ḥadīth*, ed. Nūr al-Dīn 'Itr. Bayrūt: Dār al-Kutub al-'Ilmīya, 2004.
- Madelung, Wilferd 1988: *Religious Trends in Early Islamic Iran*, New York: Bibliotheca Persica.
- Murray, David 1994: *An Ayyubid Notable and his World: Ibn al-'Adīm and Aleppo as Portrayed in his Biographical Dictionary of People Associated with the City*, Leiden, New York and Köln: E. J. Brill.
- Mottahedeh, Roy P. 2000: *Loyalty and Leadership in an Early Islamic Society*, London and New York: I. B. Tauris (First published in 1980 by Princeton University Press).
- Petry, Carl F. 1985: "Travel Patterns of Medieval Notables in the Near East," *Studia Islamica* 62.
- al-Qādī, Wadād 1995: "Biographical Dictionaries: Inner Structure and Cultural Significance," in George N. Atiyeh ed. *The Book in the Islamic World: The Written Word and Communication in the Middle East*, Albany: State University of New York.
- 2006: "Biographical Dictionaries as the Scholars' Alternative History of the Muslim Community," in Gerhard Endress ed. *Organizing Knowledge: Encyclopaedic Activities in the Pre-Eighteenth Century Islamic World*, Leiden and Boston: Brill.
- Qayyim, As'ad Sālim 1995: *'Ulūm Ṭabaqāt al-Muḥaddithīn: Ahammīyat-hu wa Fawā'id-hu*, al-Riyāḍ: Maktabat al-Rushd.
- Rosenthal, Franz 1968: *A History of Muslim Historiography*, Leiden: E. J. Brill.

al-Sakhāwī, Shams al-Dīn Abū al-Khayr Muḥammad b. ‘Abd al-Raḥmān (d. 1497) 1930-1931: *Al-I‘lān bi-’l-Tawbīkh li-man Dhamma al-Ta’rīkh*, Dimashq: al-Qudsī.
Sezgin, Fuat 1967-: *Geschichte des arabischen Schrifttums*, Leiden: E. J. Brill.

伊藤隆郎 1997: 「サハーウィーの参照した歴史関連文献」『西南アジア研究』47.

谷口淳一 2005: 「人物を伝える: アラビア語伝記文学」林佳世子, 榎屋友子編『記録と表象: 史料が語るイスラーム世界』東京大学出版会.

バーク, ピーター 2004: 『知識の社会史: 知と情報はいかにして商品化したか』井山弘幸, 城戸淳訳, 新曜社.

森山央朗 2004: 「イスラーム的知識の定着とその流通の変遷: 10-12世紀のニーシャープールを中心に」『史学雑誌』113/8.

——— 2009: 「「地方史人名録」伝記記事の特徴と性格: 中世イスラーム世界のウラマーが編んだ地域別人物記録の意図」『東洋学報』90/4.

——— 2007: 「知識を求める移動: ハディース学者の旅の重要性の論理」メトロポリタン史学会編『歴史のなかの移動とネットワーク』(メトロポリタン史学叢書1) 桜井書店.

——— 2011: 「ウラマーの出世と学問: 中世イスラーム社会の宗教知識人」『歴史と地理』644 (『世界史の研究』227)

——— 2014: 「地方史人名録: ハディース学者の地方観と世界観」柳橋博之編『イスラーム知の遺産』東京大学出版会, 2014年2月刊行予定.

湯川武 1990: 「ウラマーの遊学の世界」板垣雄三編『歴史のなかの地域』(シリーズ世界史への問い8), 岩波書店.

史料編

基督教研究会公開講演会

森山央朗

「預言者ムハンマドを「継いだ」学者たち：10-13世紀のムスリム社会の研究」

《 》内の項目名は訳者の付加。（ ）内は訳者による説明。[]内は、訳文の通りを良くするために訳者が加えた文言。〔 〕内は、原文中のイスナード（ハディース・伝承の伝達経路を提示した部分）。【 】内はクルアーンの章句。章節番号は（章：節）で表示。

史料1 ハティーブ・アル＝バグダーディー（1071年没）『バグダード史』（第7巻294頁）

《名前》ハサン・ブン・イスマーイール・ラシード，アブー・アリー・アッ＝ラムリー

《教授：内容・教授地》バグダードに滞在し、同地でハディースを伝えた。

《学習：師》そのとき依拠したのは、彼の父と、ダムラ・ブン・ラビーア、ムハンマド・ブン・ユースフ・アル＝ファルヤービーである。

《教授：弟子》ハサン・ブン・イスマーイール（被記載者）から〔ハディースを〕伝えたのは、イスマーイール・ブン・アル＝アッバース・アル＝ワッラークと、アブド・アル＝マリク・ブン・ヤフヤー・ブン・アビー・ザッカール、アブー・バクル・ブン・ムジャーヒド・アル＝ムクリー、アル＝カーラーティーとして知られるムハンマド・ブン・アル＝ハサン、ムハンマド・ブン・マフラド・アル＝アッタールである。

《ハディース》〔アズハリーが私（編纂者：ハティーブ・アル＝バグダーディー）に伝えた。ムハンマド・ブン・アル＝アッバース・アル＝ワッラークがアズハリーに伝え、ムハンマド・ブン・アル＝アッバースへは、彼の父（イスマーイール・ブン・アル＝アッバース・アル＝ワッラーク）が伝え、彼の父へは、ハサン・ブン・イスマーイール・ブン・ラシード・アッ＝ラムリーが伝えて言った。「マリク・ブン・アナスが、サマーから聞いて我々に伝え、サマーは、アブー・サーリフから聞き、アブー・サーリフは、アブー・フライラから聞き、アブー・フライラが預言者から聞いた。」〕

預言者は言った：旅は難儀の一つである。眠ることも、食べることも、飲むこともままならない。旅の目的を果たしたら、家族のもとへ急ぐがよい¹。

1. ブハーリー『ハディース：イスラーム伝承集成』牧野信也訳，全6巻，中公文庫，2001，3:168；ムスリム『日訳サヒーフ ムスリム』磯崎定基他訳，全3巻，日本ムスリム協会，1987-1989，3:68。

《没年》〔私（編纂者：ハティーブ・アル＝バグダーディー）は、イブン・マフラドの直筆本の中に、[次のようにあるのを] 読んだ。〕

207年シャウワール月（823年2/3月）、ハサン・ブン・イスマーイール・ブン・ラシード・アブー・アリーが死んだ。

〔私（イブン・マフラド）にこのように伝えたのは、スイムサールである。スイムサールにはサッフアールが伝え。サッフアールには、イブン・カーニウが伝えた。〕

史料2 イブン・アル＝ファラディー（1012/3年没）

『アンダルスの上ラマーと知識伝承者の歴史』（第1巻307頁）

《名前》アブド・アッ＝ラフマーン・ブン・アフマド・ブン・ムハンマド・ブン・アビー・ウマル・アル＝バクリー・アル＝バツザーズ

《出自・出身地》コルドバの人で、《名前》アブー・アル＝ムタッリフのクンヤ（父称）を持ち、イブン・アル＝ミンハラインとして知られる。

《学習：師・学習内容・習得地》旅をし、マッカ（メッカ）で、アブー・バクル・アル＝アジュリーから、彼の著作について多くを学んだ。そして、アブー・バクル・ムハンマド・ブン・アフマド・ブン・ムサー・アル＝アンマーティーと、ムハンマド・ブン・ナーフィウ・アル＝フザーイーに学んだ。そして、エジプトで、イブン・アル＝ワルドと、ヤアクブ・ブン・アル＝ムバーラクと、イブラーヒーム・ブン・アフマド・ブン・アル＝ハッダード・アル＝バグダーディーと、その他多くの人々に学んだ。そして、アンダルスに戻った。

《教授：弟子・内容》我々（編纂者：イブン・アル＝ファラディー）の同僚のある者が、彼から [ハディースを] 書き取った。

《評価》しかし、彼 [の伝えたハディース] には、[信頼性を] 否定されるべきものが含まれていた。

《没年》370年第2ラビーウ月10日（980年10月23日）に死去した。

史料3 サフミー（1036/7年没）『ジュルジャーニ史』（389頁）

《名前》アブー・アブド・アッラー、ムハンマド・ブン・アラワイヒ・ブン・アル＝ハサン・アル＝ファキーフ・アッ＝ラツザーズ・アル＝ジュルジャーニー

《学習：師・習得地》イラク、シリア、エジプト、ヒジャーズの人々から [ハディースを] 伝えた。

《没年》300年第1ラビーウ月3日（912年10月18日）に亡くなった。

《埋葬地》墓は、[ジュルジャーンの] ハンダク門にある。

《教授：弟子》彼に依拠して[ハディースを] 伝えたのは、アブー・バクル・アル＝イスマーイーリー、アブー・アフマド・ブン・アディー、イスマーイーール・ブン・サイドなどの人々である。

《ハディース》[イマーム・アブー・バクル・アル＝イスマーイーリーが我々に伝えた。アブー・バクル・アル＝イスマーイーリーには、ジュルジャーンの人であるアブー・アブド・アッラー・ムハンマド・ブン・アラワイヒ・イブン・アル＝フサイン・アル＝ファキーフが伝え、アブー・アブド・アッラー・ムハンマドへは、アブー・シャイバ・イブラーヒーム・ブン・アブド・アッラー・ブン・アビー・シャイバが伝えた。アブー・シャイバには彼の父が伝え、アブー・シャイバの父へはアアマシュが伝え、アアマシュへはタミームが伝え、タミームにはウルワ・ブン・ズバイルが伝えた。ウルワは言った。]

アーイシャは言った：全てを聞き給うお方（神）に祝福あれ。私は、ハウラ・ビント・サアラバの言ったことを聞いた。彼女の言葉を全て聞き取ったわけではないが、彼女は神の使徒に夫の不正を訴えて言った。

「私の夫は、私が若い頃には私を抱き、私は夫のために腹を痛め[て息子を産み]ました。しかし、私が年を取り、息子が[成長して]私から離れると、夫は私を離縁しました。神よ、私はあなたに訴えます」。

すると間もなく、ガブリエルが次の啓示をもたらした。

【神は、あの女が、お前（ムハンマド）に、その夫を訴えて言ったことを聞いた。（58:1）】。【その夫】とは、アウス・ブン・アッ＝サーミトである²。

史料4：記事の伝播と変化

アブー・アリー・ムハンマド・アル＝クシャイリー（945年没）『ラッカ史』

〈A〉：イスマーイーール・ブン・アブド・アッラー・ブン・ズラーラ

私（アブー・アリー）は、イブラーヒーム・ブン・イスマーイーール・ブン・アブド・アッラー・ブン・ズラーラが次のように言うのを聞いた。「私の父は、229（843/4）年にバスラで死んだ」。 (記事番号75)

2. Abū ‘Abd Allāh Muḥammad b. Yazīd al-Qazwīnī Ibn Māja, *Sunan Ibn Māja*, ed. Muḥammad Fu’ād ‘Abd al-Bāqī, 2 vols., Miṣr: Dār iḥyā’ al-kutub al-‘Arabīya and ‘Īsā al-Bābī al-Ḥalabī, 1952-1953, 1:666.

〈B〉：イスマーイール・ブン・アブド・アッラー・ブン・ハーリド、アブー・アブド・アッラー・アッ=スッカリー

ダマスカスのカーディーを努めた。(記事番号65)

ハティーブ・アル=バグダーディー (1071年没) 『バグダード史』第6巻、記事番号3292

〈A〉：イスマーイール・ブン・アブド・アッラー・ブン・ズラーラ、アブー・アル=ハサン・アッ=スッカリー・アッ=ラッキー

バグダードを訪れ、同地で、ハンマード・ブン・ザイドとアブド・アル=アズィーズ・ブン・アブド・アッ=ラフマーン・アル=クラシー、アブド・アル=ワッハブ・アッ=サカフィー、シャリーク・ブン・アブド・アッラー・アン=ナフィー、ダーウード・ブン・アッ=ザブルカーンに依拠してハディースを伝えた。

そして、アブー・バクル・ブン・アビー・アッ=ドゥンヤー、アブド・アッラー・ブン・アフマド・ブン・ハンバル、ムハンマド・ブン・アル=ファドウル・ブン・ジャービル・アッ=サカティー、イスハーク・ブン・スイニーン・アル=ハトゥリー、アル=ハサン・ブン・アリー・ブン・アル=ワリード・アル=ファーリスィーとその他の者たちが、彼(イスマーイール)からハディースを伝えた。

[… イスマーイール・ブン・アブド・アッラー・ブン・ズラーラ・アッ=ラッキー … サービド・ブン・アル=バンナーニーが、アナス・ブン・マーリクから伝えた。]

預言者は、死の床にあり、不安に沈んでいった。するとファーティマは、自分の胸に預言者を慰ませ、言った。「心配なさいませぬ、お父様」。預言者は言った。「今日より後、お前の父は不安にかられることはないだろう」。預言者が召された(死んだ)とき、次のように言った。「お父様、あなたより主に近い者はありません。お父様、天国の樂園はあなたの安息の場です。お父様、私たちはジブリールにあなたの死を嘆きました。お父様、主はあなたの祈願に答えられました」。[アナスは言った。]：ファーティマは私に言った。「アナスよ、神の使徒[の遺体]に土をかけることで、お前たちの心は晴れたか」。

[ハサン・ブン・ムハンマド・アル=ハッラールが、アブー・アル=ハサン・アッ=ダーラクトゥニーが次のように言ったと伝えた。]

イスマーイール・ブン・アブド・アッラー・アッ=スッカリーは、信頼できる。〈A〉

[ウバイド・アッラー・ブン・アフマド・ブン・ウスマーン・アッ＝サイラフィーと、ハサン・ブン・ムハンマド・ブン・ウマル・アン＝ナルスィーの二人が私（ハティーフ・アル＝バグダーディー）に伝えて言った。]

：… アブー・アリー・ムハンマド・ブン・サイード・ブン・アブド・アッ＝ラフマーン・アル＝ハッラーニーは言った：私は、イブラーヒーム・ブン・イスマーイール・ブン・アブド・アッラー・ブン・ズラーラが次のように言うのを聞いた。

「私の父は、229 (843/4) 年にバスラで死んだ」。 『ラッカ史』 〈A〉 の引用

イブン・アサーキル (1176年没) 『ダマスカス史』 (第8巻415-418頁)

〈B〉 イスマーイール・ブン・アブド・アッラー・ブン・ハーリド・ブン・ヤズィード、アブー・アブド・アッラー・アル＝クラシー・アル＝アブディー・アッ＝ラッキー。スッカリーとして知られている。ダマスカスのカーディー。

[… アブー・バクル・アル＝ハティーフ [・アル＝バグダーディー] が、アブー・マンスール・ブン・ハイルーンに伝え、アブー・マンスールがアブー・アル＝ハサン・ブン・クバイスに伝え、アブー・アル＝ハサンが私（イブン・アサーキル）に伝えた。 [アブー・バクル・アル＝ハーフィズは言った。]]

ハサン・ブン・ムハンマド・アル＝ハッラーールが、アブー・アル＝ハサン・ブン・アッ＝ダールクトゥニーから聞いて、私（アブー・バクル・アル＝ハーフィズ）に伝えて言った。イスマーイール・ブン・アブド・アッラー・アッ＝スッカリーは、信頼できる。

『バグダード史』 〈A〉 の最初の四角囲い部分の引用

[…アブー・アリー・ムハンマド・ブン・サイード・ブン・アブド・アッ＝ラフマーン・アッ＝ラッキー・アル＝ハーフィズが、『ラッカ史』の中で伝えて言った。]

イスマーイール・ブン・アブド・アッラー・ブン・ハーリド、アブー・アブド・アッラー・アッ＝スッカリーはダマスカスのカーディーを努めた。 『ラッカ史』 〈B〉 の引用

イブン・アル＝アディーム（1262年没）『アレppo史探求の究極』における注釈（第2巻65頁）

このように、ハティーフは、アブー・アル＝ハサン・アッ＝ダーラクトニーの [「イスマーイール・アブド・アッラー・アッ＝スッカリーは確実である」という] この言葉を、イスマーイール・ブン・アブド・アッラー・ブン・ズラーラ、アブー・アル＝ハサン（イスマーイール）の伝記に引用している。『バグダード史』〈A〉の最初の四角囲い部分について

しかし、ダーラクトニーが言っているのは、[名前が] 類似している、イスマーイール・ブン・アブド・アッラー・ブン・ハーリド・ブン・ヤズィード・ブン・アブド・アッラー・アッ＝スッカリー（イブン・ハーリド）（『ラッカ史』『ダマスカス史』〈B〉のことだったと思われる。

ザハビー（1348年没）『イスラーム史』（ダマスカスで編纂）

ヒジュラ暦241-250年の巻175-177頁

〈B〉イスマーイール・ブン・アブド・アッラー・ブン・ハーリド・ブン・ヤズィード、アブー・アブド・アッラー〈B〉、および、アブー・アル＝ハサン〈A〉・アル＝クラシー・アル＝アブディー・アッ＝ラッキー・アル＝ファキーフ。スッカリーとして知られる。

ダマスカスのカーディー。『ラッカ史』〈B〉『ダマスカス史』〈B〉に依拠

ダーラクトウニーは、彼を信頼していた。

『バグダード史』〈A〉の最初の四角囲い部分
→『ダマスカス史』〈B〉
→『アレppo史探求の究極』の注釈

訳出引用史料一覧

ハティーフ・アル＝バグダーディー 『バグダード史』

Al-Khaṭīb al-Baghdādī, Abū Bakr Aḥamd b. ‘Alī, *Ta’rīkh Baghdād aw Madīnat al-Salām*, ed. Muṣṭafā ‘Abd al-Qādir ‘Aṭā. 14 vols. + index, Bayrūt: Dār al-Kutub al-‘Ilmīya, 1997.

イブン・アル＝ファラディー 『アンダルスの知識伝承者の歴史』

Ibn al-Faradī, Abū al-Walīd ‘Abd Allāh b. Muḥammad al-Azdī (d. 1012/3), *Ta’rīkh al-‘Ulamā’ wa al-Ruwāt li-‘l-‘Ilm bi-al-Andalus*, ed. al-Sayyid ‘Izzat al-‘Aṭṭār al-Ḥusaynī, 2 vols., al-Qāhira: Maktabat al-Khānjī, 1954.

サフミー 『ジュルジャーニ史』

al-Sahmī, Abū al-Qāsim Ḥamza b. Yūsuf, *Ta’rīkh Jurjān*, ed. Muḥammad ‘Abd al-Mu‘īd Khān, Bayrūt: ‘Ālam al-kutub, 1987.

アブー・アリー・ムハンマド・アル＝クシャイリー 『ラッカ史』

Abū ‘Alī Muḥammad b. Sa‘īd al-Ḥarrānī Al-Qushayrī, *Ta’rīkh al-Raqqa wa man Nazala-hā min Aṣḥāb Rasūl Allāh wa al-Tābi‘īn wa al-Fuqahā’ wa al-Muḥaddithīn*, ed. Ibrāhīm Ṣāliḥ, Dimashq: Dār al-Bashā’ir, 1998.

イブン・アサーキル 『ダマスカス史』

Ibn ‘Asākir, Abū al-Qāsim ‘Alī b. al-Ḥasan, *Ta’rīkh Madīnat Dimashq wa Dhikr Faḍl-hā wa Tasmiya man Ḥalla-hā min al-Amāthil aw Ajtāza bi-Nawāḥī-hā min Wārid-hā wa Ahl-hā*, ed. Ṣalāḥ al-Dīn al-Munajjid et al., Dimashq: al-Majma‘ al-‘Ilmī al-‘Arabī bi-Dimashq/Majma‘ al-Lughā al-‘Arabīya bi-Dimashq, 1951-.

イブン・アル＝アデーム 『アレppo史探求の究極』

Ibn al-‘Adīm, Kamāl al-Dīn ‘Umar b. Aḥmad, *Bughyat al-Ṭalab fī Ta’rīkh Ḥalab*, ed. Suhayl Zakkār, 11 vols., Dimashq: Dār al-Ba‘th, 1988-1989.

ザハビー (1348年没) 『イスラーム史』

al-Dhahabī, Shams al-Dīn Muḥammad b. ‘Uthmān, *Ta’rīkh al-Islām wa Wafāyāt al-Mashāhīr wa al-A‘lām*, ed. ‘Umar ‘Abd al-Salām Tadmūrī, 53 vols., Bayrūt: Dār al-Kitāb al-‘Arabī, 1987-2000.